

2025年度九州歯科大学 学校推薦型選抜小論文試験課題

受験番号	
------	--

紀元前5世紀に活躍したヒポクラテスは、科学に基づく医学の基礎を作ったことで「医学の祖」と言われています。現代においても、ヒポクラテスは尊敬をあつめ、ヒポクラテスが弟子達に教えを説いたとされる「すずかけ」の木は世界中の医療施設に移植されています。ヒポクラテスが医療者の職業倫理について記した宣誓文が「ヒポクラテスの誓い」(下記)です。

このヒポクラテスの誓いは医療者にとって、現代においても重みのある言葉ではありますが、医療の発展とともに、適さなくなっている部分もあります。この誓いについて、現代において「適する」、「適さない」と考える部分をそれぞれ示し、「適さない」と考える部分についてはその理由とあわせて800字以内で述べなさい。

医神アポロン、アスクレピオス、ヒュギエイア、パナケイア、およびすべての男神・女神たちの御照覧をおおぎ、つぎの誓いと師弟契約書の履行を、私は自分の能力と判断の及ぶかぎり全うすることを誓います。

この術を私に授けていただいた先生に対するときは、両親に対すると同様にし、共同生活者となり、何かが必要であれば私のものを分け、また先生の子息たちは兄弟同様に扱い、彼らが学習することを望むならば、報酬も師弟契約書もとることなく教えます。また医師の心得、講義そのほかすべての学習事項を伝授する対象は、私の息子と、先生の息子と、医師の掟^{おき}にて従い師弟誓約書を書き誓いを立てた門下生に限ることにし、彼ら以外の誰にも伝授はいたしません。

養生治療を施すに当たっては、能力と判断の及ぶ限り患者の利益になることを考え、危害を加えたり不正を行う目的で治療することはいたしません。

また求められても、致死薬を与えることはせず、そういう助言も致しません。同様に婦人に対し墮胎用のペッサリーを与えることもいたしません。私の生活と術ともに清浄かつ敬虔^{けいけん}に守りとおします。

結石の患者に対しては、決して切開手術は行わず、それを専門の業とする人に任せます。

また、どの家には行って行くにせよ、すべては患者の利益になることを考え、どんな意図的不正も害悪も加えません。とくに、男と女、自由人と奴隷のいかにとわず、彼らの肉体に対して情欲をみたすことはいたしません。

治療の時、または治療しないときも、人々の生活に関して見聞きすることで、およそ口外すべきでないものは、それを秘密事項と考え、口を閉ざすことに致します。

以上の誓いを私が全うしこれを犯すことがないならば、すべての人々から永く名声を博し、生活と術のうえでの実りが得られますように。しかし誓いから道を踏み外し偽誓などを行うことがあれば、逆の報いをうけますように。

【出典】

大槻マミ太郎訳：誓い。小川鼎三編、ヒポクラテス全集、第1巻、エンタプライズ、東京、1985;580-582